

<教育>

全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界		
テーマ名	15-A6 核兵器のない世界を目指して		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	私たちと核兵器廃絶	目区分	全学モジュールⅠ科目
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣 旨	<p>広島・長崎の被ばくから70年を経てなお核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被ばく医科大学を創基に持つ長崎大学として「核なき世界の実現」は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。</p> <p>本モジュールでは被ばく地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、世界から核兵器を廃絶するために必要な具体的な知識やアプローチを、様々な角度から学び、考察する。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・医学・平和学など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>2009年4月、アメリカのオバマ大統領は「核兵器のない世界」をめざす、と世界に訴えました。各国の指導者層からもそれを支持する声が次々にあげられました。多くのデータが、核兵器廃絶を求める人々が世界のマジョリティ(大多数)であることを示しています。しかし、世界には未だ約1万6千4百発もの核兵器が存在し、その廃絶に向かう歩みは遅々としています。被ばく者をはじめ、世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをみなさんと考えていきたいと思います。長崎大学に学んだことの証となるような特色のあるモジュールです。</p>		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
核兵器とは何か	中村 桂子	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、兵器そのものや抑止概念、核兵器政策、運用体制の歴史の変遷と現状、核軍備管理・軍縮・不拡散努力の歴史と現状などを学ぶ。	核兵器、軍備管理、軍縮、不拡散、抑止
国際社会と平和	近江 美保	「核兵器」はなぜ生まれ、今も維持されているのか。その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学び、現代のグローバルな社会における平和とは何かを多様な視点から考える。	国際社会、平和、紛争、安全保障、人権
被ばくと社会	鈴木 達治郎 奥野 正太郎 関口 達夫 平野 伸人	長崎における被ばくの歴史、報道にみる社会への影響、被ばく体験の継承の実際を基礎知識として学び、被ばく体験の継承における問題点について考える力を養うために学生同士で話し合う。	原爆、報道、被ばく体験継承

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	現代的な話題 を取り入れる	アクティブ・ラ ーニングの活用
核兵器とは何か	◎	◎	◎	○	○	○	◎			◎		○		◎	◎	○
国際社会と平和	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○		◎		○		◎	◎	○
被ばくと社会	◎	◎					◎			◎	○			○	○	○
◎(特に重視)の数	3	3	2	1	0	0	3	0	0	3	0	0	0	2	2	0
○(重視)の数	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	1	2	0	1	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-a9 私たちと核兵器廃絶		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣旨	<p>本モジュールでは、核問題に多角的にアプローチすることを通じて、自分と核問題の現在のなかかわりを見つめ直し、より良い「未来」を創るための方途に一人一人が考察を深めていくことを目指す。私たちの現在の社会や生活と深いなかかわりを持つ「文学・芸術」を切り口に、核兵器の存在や使用が私たちの認識や考え方にどのような影響を与えてきたかを検証する。「医療」の切り口では、原爆のもたらす深刻な影響が70年前の出来事ではなく、今に続く問題であることを学ぶ。さらには、「核兵器のない世界」をめざした日本と世界の人々の過去と現在の取り組みを知ることで、「私たち」には何ができるのかの可能性を探っていく。モジュールⅠを受講していることが望ましいが、必須ではない。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>「核兵器廃絶」と聞いて、あなたはどのようなイメージを持つでしょうか? 「難しそう」「なんとなく怖い」「理想的だけれど、そんなこと無理でしょ」「自分にできることなんかない」——。そんな声が聞こえてきそうです。</p> <p>核兵器の問題というのは、本当に「自分とは関係ない、遠い世界のこと」なのでしょうか。</p> <p>ちょっと立ち止まって考えてみよう——それが本モジュールの目的です。核兵器の問題が「過去」の問題ではなく、まさに今の私たちと密接な関係があることをさまざまなアプローチから検証していきます。新しい「発見」がたくさんあることでしょう。被爆地長崎の特色溢れる実践的なモジュールです。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
文学・芸術と核兵器	広瀬 訓 山上 徹二郎 赤木 かんこ	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に平和、紛争と核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、それらが様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを鑑賞、考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。	核兵器、芸術、認識
被ばく者と医療	中島 正洋 宮崎 泰司 三根 真理子 赤星 正純	原爆被災後の、被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来をグループで考察する。	原爆、救護、健康影響、被ばく者医療
市民運動・NGOと核兵器廃絶	中村 桂子	世界の核軍縮努力のなかで、市民運動・NGOの果たす役割はますます重要になっている。アナン前国連事務総長は、その力を「新しいスーパーパワー」と呼んだ。対人地雷禁止条約などの成功例とともに、核兵器廃絶のために果たしてきた被ばく者の役割、市民運動・NGOの役割を学び、今後を考察する。	市民運動、NGO、核兵器廃絶、被ばく者

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
自己成長志向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
批判的思考	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
相互啓発志向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
自己表現	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
行動力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
社会貢献意欲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
日本語力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
英語力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
基盤的知識	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
環境の意義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
多様性の意義	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
人文科学の内容を取り扱う	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
社会科学の内容を取り扱う	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
現代的な話題を取り入れる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
アクティブ・ラーニングの活用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	2	3	2	2	2	2	1	0	0	0	0	1	0	2	2
○(重視)の数	1	0	0	0	1	1	1	0	0	3	0	2	0	3	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-a10 核兵器廃絶へのアプローチ		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	広瀬 訓	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣 旨	<p>広島・長崎の被ばくから 70 年を経てなお核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被ばく医科大学を創基に持つ長崎大学として「核なき世界の実現」は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。</p> <p>本モジュールでは被ばく地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、世界から核兵器を廃絶するために必要な具体的な知識やアプローチを、様々な角度から学び、考察する。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・平和学・メディア論など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>2009年4月、アメリカのオバマ大統領は「核兵器のない世界」をめざす、と世界に訴えました。各国の指導者層からもそれを支持する声が次々にあげられました。多くのデータが、核兵器廃絶を求め人々が世界のマジョリティ(大多数)であることを示しています。しかし、世界には未だ約1万6千4百発もの核兵器が存在し、その廃絶に向かう歩みは遅々としています。被ばく者をはじめ、世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをアカデミックに考えていきたいと思います。長崎大学に学んだことの証となるような特色のあるモジュールです。</p>		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
核兵器廃絶と教育	全 炳徳 高瀬 毅 桐谷 多恵子 山口 剛史	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について考える。	核兵器、平和教育、小・中学校、被爆写真
メディアと平和	森川 裕二 山口 響 普久原 均 小倉 利丸	ジャーナリズムは、21世紀に入ってからの冷戦後世界と日本の「核政治」をどのように報道したのか。3.11後に矛盾を浮彫りにした、核開発と原子力平和利用を分離して報じてきた主要メディアの対応を批判的に整理し、「核なき世界」の課題について考える。	核政治、冷戦後、メディア、ジャーナリズム
核軍縮の法と政治	広瀬 訓 石司 真由美 西田 充	核兵器の廃絶に向けての核軍縮を取り巻く国際政治と国際法の理論と現実について考察すると同時に、核軍縮交渉の現状とその問題点を検討し、核兵器廃絶に向けての現実的なアプローチを考える。	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点						
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)												
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D			
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う	人文科学の内	容を取り扱う	社会科学の内	容を取り入れる	現代的な話題	アクティブ・ラーニングの活用
核兵器廃絶と教育	◎	○	◎		◎	◎	◎	○		○	○		○	◎	○				
メディアと平和	◎	◎	◎	◎			◎			○					◎	◎			
核軍縮の法と政治	◎		◎	○		○	◎			◎	○	○			○	◎		○	
◎(特に重視)の数	3	1	2	1	1	1	3	0	0	1	0	0	0	2	2	2	0		
○(重視)の数	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1	1	1		

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目